

脱プラサークル、脱プラ子、脱プラ美 INDEX

(エッセイさまざま)

脱プラスチックについて (2021.10)

脱プラスチックの実践 一歩ずつ 一つずつ (2021.11)

COP26 国連気候変動枠組条約第26回締約国会議と世界の若者たち (2021.12)

脱プラスチックの実践 一歩ずつ 一つずつ (2) (2022.1)

この映画を観たい！ ―マイクロプラスチック・ストーリー ぼくらが作る2050年― (2022.2)

新しい取り組み ～売る側の取り組み～ (2022.3)

脱プラスチック生活 (2022.4)

つくる責任つかう責任(SDGs12) (2022.6)

ドキュメンタリー映画「マイクロプラスチック・ストーリー

ぼくらが作る2050年」を見ました！ (2022.7)

新たな取り組みへ (2022.8)

深刻なプラスチック汚染 (2022.9)

不安と期待の近未来 (2022.10)

PFAS(ピーファス)汚染について① (2023.9)

PFAS(ピーファス)汚染について② (2023.11) (脱プラサークル)

PFAS(ピーファス)汚染について③ (2023.12) (脱プラサークル)

PFAS(ピーファス)汚染について④ (2024.2) (脱プラサークル)

PFAS(ピーファス)汚染について⑤ (2024.3) (脱プラサークル、脱プラ子)

脱プラスチックについて (2021.10)

脱プラ子 (狩場台)

コロナウィルスで大混乱の日々だが、地球温暖化の脅威も進んでいる。

2021年の夏、日本では大雨が続き、観測史上最大の雨が降り、大きな被害が出た。世界でも、7月19日ドイツ西部の大規模洪水では、183人死亡、150人行方不明。ギリシャでは、8月、過去30年で最大の熱波が続き、最高気温45度を記録した。各地で山火事が発生し、「もう、手のつけようがない」状態になっている。

地球温暖化の影響が、はっきりと私たちに押し寄せ、警告を発している。いや、警告以上のものだと思う。小泉環境大臣が、2019年9月の国連気象行動サミットで「気候変動のような大きな問題は、楽しく、クールでセクシーに取り組むべき」と発言。人類の危機を訴えたグレタさんにくらべ、あまりに危機感のない発言だったようだ。この日本で何ができるのか？

ある会で、台所で使うスポンジからマイクロプラスチックが流れ出て、海洋生物を傷つけ、やがて、私たちの人体にまで入りこんでいるという話を聞いて、ショックを受けた。それから、友人たちと意見交換しながら、脱プラスチックに挑戦している。それは、始めたばかり。また、散歩しながら、時々、プラスチックのゴミ拾いもしている。「コロナなのに、大丈夫？」と言われたが、コロナも地球温暖化も、私はどちらも、恐ろしい。

私たちの生活は、プラスチックだらけということに、まず、驚くことから始まる。これから、不定期に、学び、実践していることを投稿させていただきたい。



脱プラスチックの実践 (2021.11)

一歩ずつ 一つずつ

脱プラ美 (狩場台)

2030 問題からプラスチック汚染の恐ろしさと現状を知った。自然環境や身体への悪影響が科学者たちの間で叫ばれている。私たちにできることは何だろう。「さあプラスチックを減らそう」と具体的な行動に移そうとした時、驚いた。身のまわりにいかに多くのプラスチックが溢れているか! でも、やるしかない。一歩ずつ、一つずつ。

まず台所から。我が家の場合はまずシール容器。軽くて丈夫で汁漏れもなく安価。そして、ラップ。一番大量なのは、食品包装のトレイや袋等だ。



蜜蝋ラップ

容器はガラスや陶器やホーロー製に替え、ラップは蜜蝋ラップや繰り返し使えるものに交換し、プラスチック製品をなるべく減らすように意識した。しかし、食品包装プラスチックは、手強い。袋に入れる必要のない野菜や果物が丁寧に袋に入れている。先日テレビでパリの八百屋が映っていた。棚には個々の野菜や果物がきれいに並べられていた。この店の分だけでも相当なプラスチック削減になると思った。



欧米の各国で普及している
BULK STORE(量り売り)

企業側、流通側の事情もあるだろうけれど、何とか消費者も意識して声を上げ、取り組みを広げ、応援したいと思っている。未来の子どもたちの為に。未来の地球のために。

COP26 国連気候変動枠組条約

第26回締約国会議と世界の若者たち (2021.12)

脱プラ子 (狩場台)

10月31日から、11月13日までイギリスのグラスゴーで、人類の未来に関わる大変重要な会議が開かれました。

世界の気温上昇を 1.5 度におさえる為に、各国の首脳、代表者が集まり討議を重ねました。

主な合意は、「世界の平均気温の上昇を 1.5 度に抑える努力を追求する。来年末までに必要に応じて検証し、さらに強化するよう要請する。石炭火力発電は、段階的な削減の為の努力を加速する」という内容でした。(他にも合意あり)



19 世紀の産業革命以来、世界の平均気温は 1.2 度上昇しました。それだけで、今、氷河が溶けつづけ、海水面が上昇し続け、大雨と洪水、熱波や干ばつがより強くなっています。国連の気候変動に関する政府間パネル IPCC は、2050 年までに温室効果ガスの排出をゼロにしなければ 1.5 度以内に抑えられないと警告しています。各国の削減目標では、この目標を達成できません。今、世界の若者たちは「時間がない」「私たちの未来を奪わないで」と訴え、本気の行動を起こし、グラスゴーで 12 万人のデモが行われました。日本の若者も、グラスゴーへ行き、岸田首相に「石炭火力発電の停止」を訴えました。

岸田首相の演説は、水素・アンモニアの未確立の技術を強調し石炭火力に固執する内容で、環境 NGO から「化石賞」を受賞。全く、地球温暖化の危機を理解していない演説に失望感が広がりました。今、世界の若者たちが、コロナ禍であっても、真剣にアクションを起こし社会の仕組みをも変えようとしています。

私も続きたい!

脱プラスチックの実践 (2022.1)

一歩ずつ 一つずつ (2)

脱プラ美 (狩場台)

前回身の周りから一つずつ脱プラスチックを・・・と投稿させていただきましたが、引き続き台所から見直した実践をお伝えします。

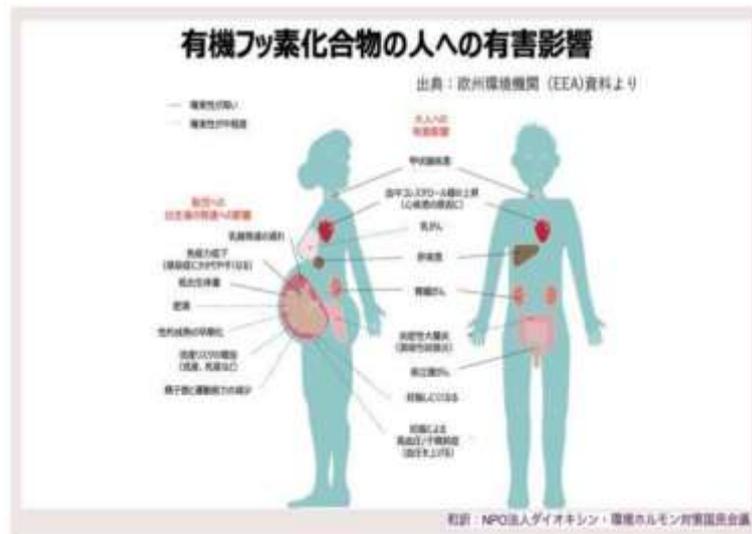
今回はフライパンです。

結婚した頃は鉄製のものを使っていましたが、フッ素樹脂加工(テフロン加工)されたフライパンを使うようになり、その便利さ—食品がくっつきにくい、手入れが簡単、安価である—に、ついつい使い続けていました。ところが、有機フッ素化合物によってがんや大腸炎、子どもの発達への悪影響が報告されていることを知りました。びっくりして早速鉄製のものに切り換えました。

使い始めはやはり面倒な手間がありました。が、「一人前のフライパンに育てる！」気持ちで手入れをしているとだんだん楽しくなりフライパンもそんな私の気持ちに答えてくれるようになり(?)使い勝手も良くなってきました。そして何より高温で調理をしても安心して食べられるようになったことでストレスフリーになりました。



このフッ素化合物はたくさん種類があり、防水スプレーや油をはじく紙、汚れをはじくカーペット等私たちの生活の思いもよらぬ所に潜んでいるようです。“ゼロ”を目指すことはとても難しいですが少しでも(一つずつ)減らしていくことを目指して、チェックを続けていきたいと思います。



この映画を観たい！ (2022.2)

—マイクロプラスチック・ストーリー ぼくらが作る2050年—
脱プラ子 (狩場台)

私が観たいのは、「マイクロプラスチック・ストーリー ぼくらが作る 2050 年」という映画。

2020 年、アメリカ・ニューヨーク市の小学生の環境活動を追ったドキュメンタリー映画が公開された。世界 40 カ国以上で上映され、8 つの賞を受賞。「使い捨てプラスチックを減らそ



う」「強い気持ちがあれば、必ずできる」子どもたちの発言が力強く響く。

日本語吹き替え版が、昨年 12 月に公開された。インターネットで、予告編を見ると、「2050 年になったら、僕は 43 歳・・・僕たちは、僕たちの環境を守る権利がある」と心からの叫びが多くの人にも響く。コロナが収まった頃、ぜひ自主上映をしたいと思う。

監督の 1 人は、日本人女性ということも、身近に感じてしまう。増え続けるプラスチックとそのゴミ。ウォーキングしながらゴミ拾いを続けている。最近、マスクや空き缶も多く捨てられ、その中にはタバコの吸い殻も入っていて・・・本当にがっかり。ゴミが川から海へ・・・海洋ゴミとなり、魚たちへ、そして、人間へと侵入している。そんなことは、考えずに捨てているのだろう。

1 月 2 日、1 人の男性がゴミ拾いをしていたので、思わず声をかけた。男性は、「ここを歩いて仕事へ行く人が捨てているんですよ。ゴミがないと気持ちいいからね」とにこやかに話した。

その男性のように、にこやかに話しかけることができないが、続けようと思う。

新しい取り組み (2022.3)

～売る側の取り組み～

脱 プラ美 (狩場台)

燃やしても、埋めても、放置しても、地球上に汚染物質を出し続けていくプラスチック。パリ協定のもと、2050年以降は化石燃料を燃やすことができなくなり、当然、化石燃料から作るプラスチックも生産できなくなる。医療分野などどうしても必要なプラスチックはバイオマスベースの素材に転換し、可能な限り再利用・リサイクルすることが望まれる。

今まで自分のまわりのプラスチックをいかに減らしていくかという視点でささやかな取り組みを述べてきたが、今回は少し視点を変えて、売る側(社会)の取り組みについて考えてみたい。

商品の包装プラスチックはなかなか減らない現状で、今注目されているのが量り売りとりユースと容器持参のシステムである。量り売りは、欧米で普及しており、ドイツ、オーストリア、カナダ、アメリカ等多くのスーパーに「量り売り場」が設置されている。客は、自分の欲しい量を持参した容器に入れて買うことができるのだ。



一方日本では、昨年7月に「斗々屋」(ととや)という国内初の量り売りのスーパーが開店した。

全国では個々の商品を扱う店があるにはある(東京にはさすがにたくさんある)が、神戸では、東灘と北区と中央区にしかない。これではとても日々の買い物には利用できない。(個人的には斗々屋神戸店が待ち遠しいです)

2つめのリユースは、LOOP(ループ)と東都生協の取り組みがある。大きくは、どちらも容器を回収し、洗浄し、充填し、また、商品として供給するシステムだ。しかし、LOOPも取り扱いが限定的なので、東都生協の「リユースびん」取り組みに期待したい。28年も前に事業が開始され、現在他の生協にも展開されているそうだ。全国にたくさんある生協のシステムを活用してリユースが広がることを切に願っている。(食べもの通信 2022年2月号より)

脱プラスチック生活 (2022.4)

脱プラ子 (狩場台)

ロシアのウクライナ侵攻は、地球環境悪化を一層加速させている。兵器が、私たちの命と暮らし、すべての生物・植物を破壊する様子を、目の当たりにする日々。言葉もでない。

脱プラスチック生活

ささやかな実践を積み重ねていく日々。しかし、便利なものに慣れてしまった私は、マイクロプラスチックを排出してしまう、スポンジも本当は使いたくなる。日々、葛藤している。

そんな時に、助けてくれるのが、友人から聞いた「服部雄一郎さんのブログ」だ。服部雄一郎さんは、翻訳・文筆家。多彩な経歴の持ち主で、葉山町役場でゴミ担当の仕事の経験がある。カリフォルニアのバークレーやチェンナイ、京都を経て、現在高知県の山の麓に家族5人で移り住む。ゴミを出さないゼロ・ウェイスト・ホームの実践をしている。

服部さんは、プラスチックフリーの生活を押し付けるわけではなく、自分たちが楽しんでやっている様子を発信しているから、凄いと思ってしまう。

ブログには「社会は変えられないが、自分を変えられる」と書いてある。一瞬「えっ」と思ってしまうが、なるほど「自分を変える人が増えたら社会は変わる」ということかなあと、勝手に解釈した。ブログを読むと、いろいろと発見があり、面白い。驚いたのは「ゴミの国際比較」だ。

世界の殆どの国には、燃えるゴミがないとのこと。日本は、世界一の焼却大国である。日本は、細かい分別をしているのに、資源化率は、

1位	日本	77%
2位	ノルウェー	57%
3位	デンマーク	54%
4位	スウェーデン	50%
5位	オランダ、スイス	49%
.		
.		
19位	アメリカ	12%
.		
25位	カナダ	4%

2割程度しかない。なんで？ これから、じっくり読ませてもらおうと思っている。楽しみながら・・・。

服部雄一郎さんのブログ

[サステナブルに暮らしたい | ゼロウェイスト、プラスチックフリー、ギフトエコノミー、リジェネラティブ etc. \(sustainably.jp\)](#)

つくる責任つかう責任(SDGs12) (2022.6)

脱 プラ美 (狩場台)

今まで我が家での脱プラスチックの取り組みを台所、浴室、洗濯、衣類等テーマ毎に考えて実践してきました。

今回は、「つくる責任」について書いてみたいと思います。

最近、新しい表示の付いた商品を見つけました。

1 つめは、「エコ包装」「エコレールマーク」です。

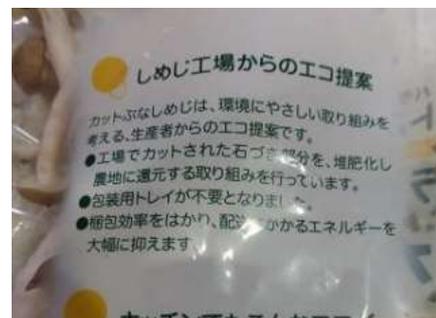
バイオマスプラスチックを使用している点や菓子類の中のプラスチックトレイをなくしてプラスチック使用量や輸送コストを減らす取り組みを示すマークです。

2 つめは、「しめじ工場からのエコ提案」というものです。

カットぶなしめじの袋に載っていました。家庭で捨てられる石づき部分(1 株のうち 30%)を予め工場がカットし、堆肥化し、農地に還元するというものです。その結果生ゴミの削減と包装用トレイが不要になるという取り組みです。

どちらも「つくる責任」として脱プラスチックや環境問題に取り組もうとする姿を見ることができると思います。

日本では 4 月 1 日から、プラスチック新法が施行されました。コンビニや飲食店にプラ製品の削減、代替素材への転換を促し自治体の一括回収と再資源化をすすめるとしています。しかし、費用は自治体負担。企業による自主回収は任意、削減への数値目標もなし、という全く不完全なものです。少数の企業努力かもしれませんが、私たち消費者もよく目を凝らして、それらの努力を応援していくことが大切だと思います。



ドキュメンタリー映画「マイクロプラスチック・ストーリー

ぼくらが作る2050年」を見ました！

脱 プラ子（狩場台）

念願かなって、6月11日、ある生協の企画で、オンラインで映画を見ることができた。

この映画は、アメリカの非営利団体カフェテリア・カルチャーが、ニューヨーク市ブルックリン区の5年生たちと一緒に活動した2年間のプラスチック削減の環境教育プログラムをドキュメントしたものだ。当日、5名で視聴した。



子どもたちが、プラスチックについて学んでいく過程が丁寧に描かれ、自分たちを「市民科学者」だとして、世界にいる専門家も巻きこんで、マイクロプラスチックの正体と減らす対策を考えていく。その姿は、素晴らしいの一言。監督の佐竹さんは「今、何がおこるかわからない社会。子どもたちが、自分で考えて、調べて、データを分析し、社会をかえるスキルを学ぶ。市民として参加して、住みよい社会をつくる。そんな力を身につけることが大事」と話していたのが印象的だった。（実際、学校給食のプラスチック削減について、ニューヨーク市議会に働きかけている。）

映画の内容は、私たちの知らないことばかりだった。

- 今、世界にはマイクロプラスチックが51兆個
- 大人の便を調べたら8割の人からマイクロプラスチックがでてきた
- 私たちは、マイクロプラスチックを当たり前前に食べて、吸っている
- 今、アメリカではプラスチックをメタンで作っている などなど。

私たちも、学ばないといけない。

子どもたちの未来は、どうなるのか……。

佐竹さんは、「日本でも、多くの人たちが環境問題で立ち上がっている。この映画を多くの人に見てほしい」。マイクロプラスチックから見えてくる世界の環境汚染の実態は、深刻なものだった。多くの人たちと共有したい。



三陸鉄道「ゴルゴ13ラッピング車両」

新たな取り組みへ

脱 プラ美（狩場台）

2022年3月2日国連環境総会において、プラスチック汚染撲滅に向けて、法的拘束力のある国際条約制定を作るための、政府間交渉委員会(INC)の設立が合意された。

また、2024年未までに、合意案を完成させるために2022年中にINCの第1回会合を実施する予定だ。各国は、原料から製造…リサイクルまでそれぞれの段階に応じた対策などについて話し合う。

自然環境に流れ出したプラごみは、海の生物だけではなく地球温暖化にも影響を与えているというのに、これまで国際的な取り決めが無かったというのだから、総会のアイデ議長が「我々は、歴史を作った」と、宣言したのもうなずける。あと2年しかないが、少し世界が動き始めたことに希望を感じる。

日本では「WWF(世界自然保護基金)ジャパン」が使い捨てプラスチック製品を、大量生産する社会から転換し、持続可能な資源循環を推進し廃棄物ゼロを目指す枠組み「プラスチック・サーキュラー・チャレンジ 2025」を発表した。(2022年2月22日)WWFジャパンの提案に賛同した企業は、飲料メーカーや航空会社など、計10社で、2025年までの各社の取り組みを発表した。

これからの国連や日本の動きに注目していきたいし、私達も暮らしの中でプラスチックを意識して、出来る事を少しずつ進めていきたい。



深刻なプラスチック汚染（2022.9）

脱 プラ子（狩場台）

環境汚染物質の研究をしている東京農工大教授の高田秀重さんが、ビッグイシュー2022.8.15号にわかりやすく書いているので、抜粋しながら、紹介したい。

プラスチックに含まれる環境ホルモンが、体に悪影響を与えていることがわかってきたのが、20年前ぐらいからだ。金属やガラス、木などの天然素材に変わって安価に作れる人工的な素材としてのプラスチックは、1907年、米国の化学者が100%人工的なプラスチックに成功。石油を原料に、人間が化学的に合成した「合成樹脂」で、自然界にはないもの。微生物には分解されず、生物たちも消化できない。例えば、発砲スチロール製の容器が消えるまでに、数千年かかる。プラスチックの構造を見るとポリマーの隙間に添加剤が配合され、構造上溶けやすくなっている。添加剤は、熱や油で溶け出して、有害なものが溶け出し、内分泌系をかく乱することで性や生殖に関する障害を引き起こすという。(特にカップ麺は、陶器やガラスに移すことを勧める。)

日本は、使い捨てプラスチックの廃棄量は、アメリカにつぐ世界第二位。リサイクルの仕方も、実は大きな問題をかかえ、限界があることが紹介されている。

それでは、私たち市民に何ができるのか？

まずは、プラスチックの使用量・廃棄量を減らす工夫をする。マイボトルの利用、ミツロウラップなど自分も取り入れている。そして、今、深刻化しているのが、海洋プラスチックごみ問題。「マイクロプラスチックごみを魚介類が取り込むと、内分泌系に影響を及ぼし、生殖能力や再生産能力が下がり、個体数が減って、漁業資源が枯渇する。加えて油に溶けやすい有害物質が魚介類の脂肪などに溜まって、それを食べた人間は、間接的に曝露されます」(詳しくは、ビッグイシューにかかれてあります)

地球上のどこでもあふれるプラスチックごみ。特に日本は、その使用量の多さに驚く。もっと、知識をふやし、一人ひとりの行動変容とプラスチック製造を見直すような働きかけをしていきたい。



太平洋上日本列島から1000キロ沖合の海水から取り出したマイクロプラスチック
(高田秀重さん提供)

不安と期待の近未来 (2022.10)

脱 プラ美 (狩場台)

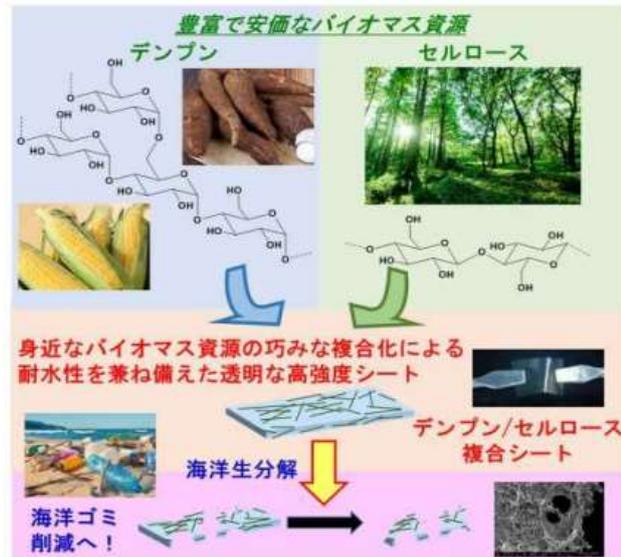
脱プラ子さんと交代で始めたこの投稿も、早いもので一年になる。

この間、プラスチック汚染の恐ろしさが少しずつ世の中で叫ばれるようになり、少し気を付けてアンテナを張っておけば TV や雑誌・新聞等でも取り上げられるようになってきた。プラスチックが細かく砕けたマイクロプラスチックによる海洋汚染、海洋生物への被害、更にそれらを食べている人への被害。プラスチックに使われている添加剤に含まれる環境ホルモンが引き起こす様々な健康被害。

妊婦さんの骨盤の中でさえマイクロプラスチックが確認され、日本人の尿や血液中からも添加剤が検出されているそうだ。もはや他人事ではなく、ひとり一人が自分事として取り組まなくてはいけない段階だろう。

一方、研究段階ではプラスチックに代わるものとして、バイオマス資源(デンプンとセルロースといった生物資源)に着目し、複合化技術により海の中で溶けるプラスチックシートが開発された。(2020年宇山浩氏 大阪大学大学院工学研究科)

耐水性を向上させ、透明で高強度のシートである。しかもこのシートは海中で約1ヶ月浸けておくと無数に穴があき、菌類や酵素の働きで徐々に分解されいずれは完全に溶けてしまう。



身近にあるデンプンとセルロースという素材の組み合わせで既存のプラスチックと同等以上の強度を有することから経済成長と環境保全を両立する新素材として期待されている。1日も早い実用・普及を願っている。

私自身一連の投稿をさせていただいたことで、一年前と比べるとずいぶん“プラスチック・フリー”の暮らしに近づいたと思うし、いろいろ勉強することも出来て良かった。ひとり一人は小さな点であってもそれを結ぶことでパワーアップできることを期待してこれからも対話を続けていきたい。

PFAS(ピーファス)汚染について① (2023.9)

角屋克子 (狩場台)

PFAS(ピーファス)とは、約 4700 種を超える有機フッ素化合物の総称です。水や油をはじき、熱に強いので、フライパンから化粧品、消火剤まで幅広く使われてきました。長く人体にとどまるので永遠の化学物質と言われています。



この有害物質が体内にとりこまれると、甲状腺疾患・コレステロールの異常・低出生体重・肝疾患などが確認されています。

沖縄や東京・多摩地域では米軍基地が原因と 見られる汚染が注目されています。



米軍基地で使用された泡消火剤による浄水場の汚染、地下水への汚染が見つかったのです。

住民たちは、自分たちで組織を立ち上げ、国や自治体に安全な水や住民の健康調査などを要求しています。日本の政府は、まだ、調査が始まったばかりで、汚染された土壌については、基準もありません。

JEPA「PFAS」汚染より

大阪・摂津市では、PFAS を扱う工場周辺の汚染が問題になっています。周辺の畑でとれた野菜を食べていた人から高濃度の値が検出されました。

私たちの周辺を調べると、明石川・伊川で国の基準を上回る値が検出されました。飲料水や河川の基準は、1 リットルあたり、50 ナノグラムとされています。

アメリカでは、基準が厳しくなり、1 リットルあたり、4 ナノグラムです。

この違いは、何なのでしょう？

JEPA「PFAS」汚染より命と直結する水の問題は、放置できません。

私たちは、小さなサークルを作り、勉強会を始めました。

不定期に発信させてください。



PFAS(ピーファス)汚染について② (2023.11)

脱プラサークル

9月22日の神戸新聞に、「発がん性指摘のフッ素化合物 明石川流域住民、基準超え」という見出しで、PFASが大きく報道されました。

「明石川流域で暮らす明石市民の血中濃度を調べた結果、9人中6人から健康を害するリスクが生じるとされるドイツの基準値を超える数値が検出されたことがわかった。京都大学の小泉昭夫名誉教授と丸尾牧県会議員が明らかにした」と書かれてありました。

今回の調査では、市内の2浄水場(明石川・鳥羽)から上水を提供される地域に10年以上暮らす13~76歳の男性2人、女性7人。特に高かったのは、工場排水などが原因と考えられるPFOAの数値で、6人がドイツの基準(血液1ミリリットルあたり10ナノグラム)を超え、最大で27ナノグラム、平均13.4ナノグラムに達した。この値は、東京・多摩地域で調査された値3.8ナノグラムより格段に高い。日本では、血中濃度に関する基準が定められていないということも書かれてありました。

私たちは、学習を続けながら、高濃度の値が検出された明石川の上流を見に行きました。上流には「藤原橋」があり、ここの値が高いと聞きました。「なぜ、高いのか？」神戸市議会で、香川真二議員、赤田かつり議員がPFASについて質問していました。神戸市は、PFASが人体に与える影響について、はっきりした知見が得られていない中で、測定を続けていくという答弁でした。汚染源をつきとめる姿勢は、ないよう思いました。

小泉教授と丸尾議員は、「神戸市に対して汚染源調査要請を」と、明石市に対して申し入れをしています。(9月22日)

また、神戸新聞には、明石川流域には、1970年代から産業処理場が相次いで進出。廃棄物をうめた土壌からしみ出る「浸出水」が放流され、水道水への影響が懸念されてきたという気になる一文も書かれてありました。これからも、情報を集めていきたいと思えます。

神戸市の測定地点



赤字はPFOA+PFOSの値(2023年2月)
国の水質の暫定目標値は50ナノグラム

PFAS(ピーファス)汚染について③ (2023.12)

脱プラサークル

先月の投稿から、一ヶ月しか経っていませんが、新たな動きがありました。

県会議員の丸尾牧さんが、10月17日、明石川流域の水質検査を行い、11月8日結果を公表しました。結果は、11月10日ABCテレビのおかえりというニュース番組でも、紹介されました。25箇所中、13箇所において、基準値(1リットルあたり50ナノグラム)を上回りました。なんと、押部谷の地域で、10万ナノグラムが検出されました。近くに産業廃棄物処分場があります。

丸尾議員は、神戸市に対して、汚染源を特定することと、汚染物の処理をする対策をとるように申し入れをしています。

神戸市議会は、10月24日森田たきこ市会議員の排出源の調査をすべきだという質問には、「対策は、事業者にまかせる」などという答弁でした。11月16日には、「調査地点を増やし、より正確に把握する。結果を踏まえて今後の対応とる。結果は、ホームページで公表する」としています。

11月19日、神戸新聞に、丸尾さんといっしょに測定されている京都大学名誉教授の小泉昭夫教授のインタビューが掲載されました。

小泉教授は、「10万ナノグラムという値は、おそらく、産業廃棄物処分場」だと思われるが、問題は、どこが廃棄物の処理を依頼しているのかということ。依頼主である排出事業者が作成する産業廃棄物管理票は、5年間保存しなくてはならないので、神戸市にはしっかり汚染源をしらべてほしい」と述べています。



news おかえり(ABC テレビ)11月10日放送より

PFAS 汚染について、市民も声を上げ始めています。「明石の水を考える会」は、汚染源の特定と血液検査の補助を求める要望書を明石市に提出しました。

「明石川・伊川の PFAS 汚染を明らかにする市民有志」も、12 月 1 日、神戸市に汚染源の特定などの要望書を提出します。

PFAS(ピーファス)汚染について④ (2024.2) 脱プラサークル

2024 年 1 月は、PFAS の学習会が、あちらこちらで企画されました。市民が、「PFAS って何?」「明石川の水汚染ってどういうこと?」と関心を持ち始めています。どの会場も、多くの参加者があり、質問もたくさん出ていました。

身体に有害な PFAS が私たちの身の回りで使われ始めたのは、1980 年代ということで、もう、40 年以上も経過しています。その有害性について、調べている小泉昭夫教授のお話では、「調べて、検査して、対策をとる」ことが、重要と話されています。

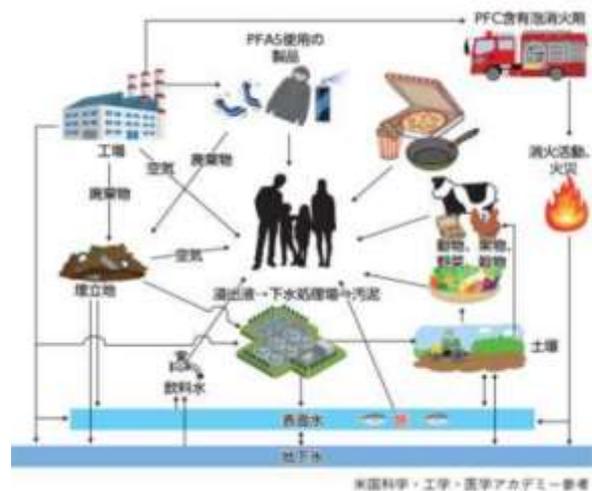
各会場での質問や感想を紹介すると、「テフロンのフライパンは大丈夫?」「娘が大阪の摂津市でダイキンのそばなので、飲み水が心配です。

ウォーターサーバーと活性炭はどちらがいいか?」「西区の農産物は、大丈夫?」「明石の魚は大丈夫?」といった具体的な質問から「大変な問題だとわかった。それぞれの市が隠蔽しているのは、国と同じだと思う」「これからの運動はどうしていくのか?」といったことも出されていました。

小泉教授は「フライパンなどは、海外の製品に注意が必要」「飲み水は、活性炭の方がよい」「魚や農産物など、まだ、明らかになっていない。検査してこそわかる」という答えでした。

更に、PFAS の環境汚染は、社会的要因であると話され、社会的な問題として、捉えていくことが大事な視点だと話されていました。その中に「環境対策として、汚染源の特定と除染」「平和への取り組みで基地をなくす」「企業の社会的責任を負わせる」の項目が挙げられていました。(他にも項目あり)

1 月に学んだことを、たくさんの人と共有したいと思います。



PFAS(ピーファス)汚染について⑤ (2024.3)

脱プラサークル 脱プラ子

2月16日神戸市議会の福祉環境委員会で「明石川のPFAS汚染の問題の解決を求める陳情」が審議されました。

明石川・伊川のPFAS汚染を明らかにする市民有志が提出した陳情です。

私は、市民有志の一人として、この陳情の口頭陳述をしてきました。陳情内容は、メンバーで作成し、5分以内の陳述としてまとめました。内容としては、早急にPFAS汚染の発生源を突き止め、汚染物質の流出を止めるということ、国に対しての働きかけを強めることです。

口頭陳述のあと、神戸市の環境局から「発生源の特定は、法律もなく難しい。PFASの科学的知見は、まだ、確立していない」という国と同じような答弁でした。世界的には規制が強化されていることと正反対の答弁にがっかりでした。

赤田かつのり議員や香川しんじ議員が何度も質問し、質疑は、40分ほど続きました。結果として、共産党とつなぐ以外の反対で否決されました。

しかし、陳情書を出すことで、PFASの問題を明確に示し、市民として、健康に生きる権利や次世代のために明石川を守っていくことを主張することができたことは、大きな収穫でした。

大きな社会問題になっていくと思われるPFASの問題。今後も、市民として声を上げていきたいと思います。



キャバツ畑の後は TSMC(半導体製造)の新工場(2月26日ニュース23)